

Noto PLUS

6



広報のと
第112号

平成26年6月1日発行

発行・能登町 編集・広報情報推進課
〒927-0492
石川県鳳珠郡能登町宇出津新1字197番地1

☎0768-162-11000(他)
能登町URL: <http://www.town.noto.lg.jp>
Eメール: info@town.noto.lg.jp



「にがくい」

まつなみキッズセンター「端午の節句ミニお茶会」
(5月14日)



千尋の浜草

加藤三千雄さんがたどる先祖・吉彦の鈴屋入門

旅日記⑥ 5月16日、最大の難所を越え近江に



①湯尾峠は石垣などが残り、現在も往時の姿をしのぶことができる。かつては交通の要衝として多くの往来があった。②孫嫡子神社のほこら ③板取峠を越え中河内に至ると、滋賀ナンバーのバスが待っていた。(写真は全て加藤さん撮影。)

府中

(現在の越前市)を出発して、「脇本」の茶屋で休んでいると、加賀の隣国越中の大工2〜3人と共に。お互いに素性などを語り合いました。この人たちは品性がやさしく、旅の疲れも足の痛みも忘れるほどです。街道筋を進むと左側に「雛が嵩」が見えます。普段は人が登っていきませんが、7月22日一夜だけ、祭で参詣するといえます。

湯尾峠の頂上の茶屋には「疱瘡(ほうそう・天然痘)の神」が宿るといわれのある「孫嫡子」があり、餅を売っていて、子供のきものよけに買い求めてゆく人が多くいます。峠を行き交う人々はつらい道のせいか、必ずこの茶屋で休んで餅を食べます。孫嫡子とは、疱瘡を治した高僧の名前のようです。

板取峠は伊勢松坂までの道中で、もっとも難所であると思われまます。急峻な山峡で川音が凄く、険しい山、深い峡谷が奥深く連なり、連れななくして越えることができない地形です。石動出身の人が合流して計5人での道中になりました。板取のはずれの関所から6キロほど上り坂を越え中河内(滋賀県長浜市)に着くとホトトギスの声か胸をうちます。

うき旅を すさめにけりな郭公
猶わけ入ん 山のしるしに

険しい道を進むストレスを忘れさせようと、歌を詠う姿が頼もしく感じられます。宇出津を出発して9日。吉彦はようやく近江の国(現在の滋賀県)に入りました。



寛政の旅人：加藤吉彦(かとう・えひこ)。寛政9(1797)年、36歳の時、伊勢の本居宣長の元を訪ね入門。酒垂神社12代宮司。
平成の旅人：加藤三千雄(かとう・みちお=写真)。現酒垂神社宮司。9代前の先祖、吉彦の道中を実際にたどり、伊勢松坂で吉彦と宣長の交流の跡を目の当たりにした。

